様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成　24 年　4 月　28 日現在

機関番号：23803
研究種目：若手研究（B）
研究期間：2008～2010
課題番号：20730101
研究課題名（和文）後期サラマンカ学派の政治理論――カトリック的近代国家論の体系化
研究課題名（英文）Political Thought of the Later School of Salamanca: Development of the Modern Catholic Theory of the State

研究代表者
松森　奈津子（MATSUMORI NATSUKO）
静岡県立大学・国際関係学部・講師
研究者番号：80337873

研究成果の概要（和文）：本研究は、16 世紀スペインの後期サラマンカ学派（c. 1576-1600, メディナからバニェス）の思想を考察し、初期近代政治思想史におけるその地位と意義を検討するものである。中世スコラ学の刷新を試みた同学派の権力・国家論は、後に主流となる主権論とは別の観点から脱中世型権力理解を提示した点で注目されることを明らかにし､その成果を、著書や口頭報告の他、講義やメディア報道により、多様な読者、聴衆に向けて公にした。

研究成果の概要（英文）：This study examines the position and significance of the Later School of Salamanca (c. 1576-1600, from Medina to Báñez) in the history of early-modern political thought. It posits that the school’s theories on the power and state, which are based on the renovation of medieval Scholasticism, are remarkable because they present alternative ideas to the modern theory of sovereignty. The results of this study have been disseminated not only through books and papers presented at academic conferences but also through lectures and news coverage.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	900,000	270,000	1,170,000
2009 年度	600,000	180,000	780,000
2010 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総　計	2,100,000	630,000	2,730,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：政治学・政治学
キーワード：政治思想史、サラマンカ学派、スコラ、スペイン、カトリック、ビトリア、スワレス

１．研究開始当初の背景

近代の政治秩序は、西欧的主権国家体制の確立とその対外進出という二つの側面から形成されたが、従来の政治学研究では、国家理性論や社会契約説の分析を中心に、前者が注目されてきた。しかし、その特質を理解するには、マキアヴェッリからホッブズに至る国内統合／ヨーロッパ諸国家間関係樹立の論理だけでなく、インディアス問題を通じて生成した「世界」秩序創出の論理をも解明する必要がある。

このような見解に基づき、報告者はまず、近代の形成を異文化間秩序の面から考察し、「野蛮な非ヨーロッパ」と「文明としてのヨーロッパ」を対置する近代的な二分法が、鋭い批判をも伴って 16 世紀前半のスペインに芽生えたことを論証した（1995～2004 年度）。

そしてこの過程で、当時のスペインで圧倒

的な影響力をもっていたビトリアにはじまるサラマンカ学派の政治理論が、対外征服のみならず、主権国家体制の分析としても、豊かな内容を有していることが分かった。そこで続く研究テーマを、前期サラマンカ学派（c.1526-1575 ビトリアからコルプス・クリスティ）が形作ったカトリック世界の近代的権力・国家論の分析とし、申請時までにこの研究をほぼ完成させていた（2005～2007 年度）。

こうした研究成果をふまえ、残された課題は、前期サラマンカ学派（第一・第二世代）によって生成したカトリック的近代国家論が、第三世代から構成される後期サラマンカ学派（c. 1576-1600 メディナからバニェス）にどのような修正を加えられながら受け継がれ、初期近代ヨーロッパにおいていかなる地位と意義を有するのかを検討することにあるという視座を固めるに至った。

２．研究の目的

本研究は、主として二つの目的をもつ。第一に、新世界問題や宗教改革といった時事問題の考察を通じて示された、後期サラマンカ学派の世俗権力観の全体像を明らかにすること、第二に、社会契約説等、同時代の主流理論との異同を考察することにより、同学派のカトリック的近代国家論の地位と意義を模索することである。

３．研究の方法

これらの目的を達成するため、テクストの内在的分析に重点をおきながら、中世から近代に至る国家論の変遷をめぐる通時的分析をも試みた。

内在的分析としては、既発表論文で扱った前期サラマンカ学派の思想が、その弟子たちにどのように継承され、この学派の権力・国家論として精緻化・体系化されていったかを考察することが課題であった。

通時的分析としては、同学派の思想を近代国家論の形成という周知の文脈に位置づけることにより、その独自性と意義を問うことが課題であった。

４．研究成果

本研究は、申請時の当初計画では、①資料調査（2008 年度）、②草稿執筆（2009－2010 年度）、③成果発表（2011 年度）の三期に分けて進められる予定であった。しかし、2010 年度の段階で、研究が当初の計画以上に進展し、新たな展望が開けたため、本研究を基盤とする最終年度前年度応募を行った。この応募が、基盤研究Ｃ「16 世紀スペインにおける恩寵と自由意志――『もう一つの社会契約説』の展開」として採択されたため、本研究課題は、上記草稿執筆期間までの 3 年間に短縮された。それぞれの年度の具体的な成果は、以下である。

（１）2008年度

第一に、後期サラマンカ学派が依拠する前期サラマンカ学派の理論を体系的に整理し直すことによって、本研究の分析枠組を整えた。第二に、後期サラマンカ学派のテクスト調査を通じて、底本の確定と理論展開の把握に努めた。

具体的には、2005～2007年度科学研究費補助金を受けて明らかにした前期サラマンカ学派と、2008年度より分析を開始した後期サラマンカ学派の理論的異同を整理すべく、後者の資料の調査と検討を行った。彼らのラテン語原典の多くは、スワレスを除いて体系的に公刊されておらず、研究書の附録や雑誌論文として部分的に公になっている他は、サラマンカ、マドリード、バチカン等の所蔵機関に、当時の版や手稿本の形で残されている。

これらの資料の調査、収集、読解作業を進め、その中間的成果が二編の口頭報告の形で公にされた。また、教育面においても研究成果を還元すべく、通常講義に加え、特別講義を行った。

（２）2009年度

前年度に調査した原典に基づき、後期サラマンカ学派の世俗権力観をめぐる内在的分析を行い、その理論展開の過程を明らかにした。

具体的には、既発表論文で扱った前期サラマンカ学派の思想（第一世代ビトリア、ソト、カノ、カランサ、第二世代ペニャ、ソトマヨル、コルプス・クリスティ）が、その弟子たち（第三世代メディナ、バニェス、モリナ、スワレス）にどのように継承されたかを考察した。最新の学問動向をふまえた一次資料の吟味により、この学派の理論展開と相関関係の見取り図が提示され、本研究の第一の目的が達せられた。

その成果は、単著書一冊、雑誌論文一編、口頭報告三編として公にした。著書はその後、第31回サントリー学芸賞（思想・歴史部門）を受賞した。また、教育面でも研究成果を還元すべく、通常講義に加え、特別講義を行った。

（３）2010年度

前年度に明らかにした後期サラマンカ学派の世俗権力観の全体像を、中世から近代に至る国家論の変遷という文脈に位置づける通時的分析を試みた。

具体的には、中世思想を代表するトマス、トルケマダ、カイエタヌスら、および近代理論を構築したマキアヴェッリ、ボダン、グロティウスらと対照させながら、同学派の特質を検討した。その結果、16世紀スペインの思想家が、世俗権力の起源（神と自然）と自律性（教権に対する絶対的優位性の欠如）、個人概念の希薄さ（共同体思考）という点で、一

般に中世的思考にとどまるとされるゆえんを明らかにした。ついで、そうした理論的特質が実際には中世の延長上にあるのではなく、絶対主権に対抗しうる別の近代的権力理解であったことを論証した。ここに、この学派がもつ積極的な意義が提示され、本研究の第二の目的が達成された。

その成果は、分担著書三編、著書解説一編、口頭報告四編として公になっている。同時に、これまでの研究成果をまとめた英語著作の執筆を開始した。

以上のように、本研究は順調に遂行され、その成果は多様な立場、専門分野の読者、聴衆に向けて公にされた。これにより、近代政治秩序の形成過程を分析する上できわめて重要な意味をもちながら、これまでほとんど顧みられてこなかったトピックの重要性を広めることができたと思われる。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）
① 松森奈津子、「大航海時代と文明化――ビトリアによる『文明』基準の転換を中心に」、『比較文明』第 25 号、2009 年、23－38 頁、査読有。

〔学会発表〕（計９件）
① 松森奈津子、「秩序と正義――インディアス問題にみる他者認識の変遷」、京都イスパニア学研究会第 19 回大会、2010 年 12 月 5 日、キャンパスプラザ京都。
② 松森奈津子、「16、7 世紀スペインにみる恩寵論争――イエズス会とドミニコ会の対立を中心に」、南山学会 2010 年度第 2 回合同研究例会、2010 年 11 月 10 日、南山大学。
③ 松森奈津子、「16 世紀スペインにおける恩寵と自由意志――前モリナ主義からモリナ主義へ」、第 232 回政治思想研究会、2010 年 11 月 15 日、早稲田大学。
④ 松森奈津子、「グローバルな秩序とインディアス問題――サラマンカ学派にみる世界観の転換」、第 32 回スペイン史学会大会、2010 年 10 月 17 日、駒澤大学。
⑤ 松森奈津子、「近代スペイン国家形成とマイノリティ――動員と排除の論理」、2008US フォーラム、2009 年 8 月 3 日、静岡県立大学。
⑥ 松森奈津子、「16 世紀スペインの『文明』論――ビトリアによる『文明』基準の転換を中心に」、2009 年度中部政治学会、2009 年 7 月 4 日、名古屋大学。
⑦ 松森奈津子、「大航海時代と文明化――インディアス問題にみる文明―野蛮概念の諸相」、第 30 回近代思想研究会、2009 年 6 月 6 日、慶應義塾大学。
⑧ 松森奈津子、「インディアス問題からマイノリティ問題へ――近代スペイン国家形成とインディオ」、第 2 回マイノリティセミナー、2008 年 12 月 20 日、関西大学。
⑨ 松森奈津子、「秩序の境界――サラマンカ学派第一世代の万民法論」、第 221 回政治思想研究会〈『藤原保信著作集』完結記念研究報告会〉、2008 年 8 月 30 日、早稲田大学。

〔図書〕（計５件）
① 松森奈津子、関西大学マイノリティ研究センター、「16 世紀スペインにおける恩寵と自由意志――前モリナ主義からモリナ主義へ」（孝忠延夫ほか編『「マイノリティ」という視角（上）』）、2011 年、233-253 頁。
② 松森奈津子、丸善、「セネカ」、「トレド翻訳学派」、「ラス・カサス」（セルバンテス文化研究センター監修『スペイン文化事典』所収）、2011 年、494-495、508－509、538－539 頁。
③ 松森奈津子、講談社、「解説」（山内進『北の十字軍』所収）、2011 年、376-381 頁。
④ 松森奈津子、風行社、「移動、遭遇、戦争――インディアス問題にみる世界観の転換」（押村高編『超える――境界なき政治の予兆』）、2010 年、49－75 頁。
⑤ 松森奈津子、名古屋大学出版会、『野蛮から秩序へ――インディアス問題とサラマンカ学派』、2009 年、402 頁。

〔その他〕
（１）特別講義
① 慶應義塾大学法学部特別招聘講師、「グローバル化の光と影――16 世紀スペインのインディアス問題を中心に」、2009 年 12 月 17 日、於慶應義塾大学。
② 慶應義塾大学法学部特別招聘講師、「『新世界』征服は是か非か――16 世紀スペインにおけるインディアス問題」、2008 年 11 月 27 日、12 月 4 日、於慶應義塾大学。

（２）拙著『野蛮から秩序へ』紹介
① 松森奈津子、「主権国家論のオルタナティヴとしての可能性」、『イスパニア図書』第 12 号、2009 年、96－97 頁。
② http://www.kansai-u.ac.jp/minority/matsumori.html

（３）拙著『野蛮から秩序へ』書評
① 『社会思想史研究』第 34 号、2010 年（崎山政毅氏）。
② 『日本の神学』第 49 号、2010 年（ハン

ス・ユーゲン・マルクス氏)。
③ 『政治思想研究』第 10 号、2010 年（川出良枝氏)。
④ 『青山学報』第 231 号、2010 年（押村高氏)。
⑤ 『図書新聞』、2009 年 12 月 26 日付（崎山政毅氏)。
⑥ 『朝日新聞』、2009 年 7 月 26 日付（苅部直氏)。
⑦ 『出版ニュース』、2009 年 7 月 15 日(中旬号)。
⑧ 『週刊エコノミスト』、2009 年 6 月 23 日付（本村凌二氏)。

（4）メディア報道
① スペイン史学会告知記事、『毎日新聞』、2010 年 10 月 6 日付夕刊。
② サントリー学芸賞受賞、『静岡新聞』、2009 年 12 月 19 日付夕刊。
③ サントリー学芸賞決定、『朝日新聞』、『読売新聞』、『毎日新聞』ほか、2009 年 11 月 7 日付朝刊。

６．研究組織
(1)研究代表者
松森　奈津子（MATSUMORI NATSUKO）
静岡県立大学・国際関係学部・講師
研究者番号：80337873

(2)研究分担者
（　　）
研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）
研究者番号：